

2024 年度決算のお知らせ

楽天インシュアランスホールディングス株式会社の 2024 年度（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）の業績についてお知らせいたします。

【楽天インシュアランスホールディングスについて】

楽天インシュアランスホールディングスは、傘下に有する生命保険事業・損害保険事業・保険代理店事業において、迅速かつ的確な意思決定と統一的なガバナンスを実現するために設立されました。楽天保険グループ全体の事業計画や予算、財務、人事戦略の策定およびコンプライアンスの強化、リスクマネジメントを行っています。それぞれの事業は、全体戦略の下、楽天グループの提供する幅広いサービスと連携して保険販売を推進しております。

【連結業績ハイライト】

グループ連結の経常収益は 105,714 百万円、経常利益は△14,344 百万円、当期純利益は△29,154 百万円となりました。今期は、損害保険事業及び生命保険事業で計画していた基幹システム開発中止等により、特別損失 12,396 百万円を計上しております。連結ソルベンシー・マージン比率は 774.6%となり、引き続き十分な健全性を維持しています。

(単位：百万円)

主要業績指標	2023 年度 (2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで)	2024 年度 (2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで)	
			対前年同期比
経常収益	105,633	105,714	+80
経常利益	2,882	△14,344	△17,227
当期純利益	△150	△29,154	△29,003

【生命保険事業】

- 今期は、生命保険契約の保険商品区分の保険料収入^(注1)について、32,042 百万円（前年同期比 4.5% 増）となりました。また、団体信用生命保険の保険料収入は前年同期比 20.3%増と、好調に推移しました。
- 当期においては、システムの除却損等により、特別損失を計上しております。
- 団体信用生命保険の新商品として、中小企業の経営者や個人事業主の方々が返済期間中に万が一就業不能となり、毎月の返済が滞るリスクに備える「事業性融資返済保障団信」を開発し、提携金融機関への提供を開始しました。
- オリコンが発表した「2025 年 オリコン顧客満足度®調査」の医療保険ランキングにおいて、総合第 1 位を獲得しました。総合評価に加えて、「加入手続き」「保険料」「受取額・支払いスピード」「アフターフォロー」の満足度においても 1 位となりました。
- 東北楽天ゴールデンイーグルスやヴィッセル神戸への協賛を継続しており、ブランド認知度の向上を引き続き図っています。

【損害保険事業】

- 楽天ダイヤモンド会員向けの割引や新たなゴールド免許割引を導入した個人用自動車保険「ドライブアシスト」の販売が堅調に伸長したことや、大手の不動産管理会社や家賃保証会社等との提携を通じた賃貸入居者向け火災保険「リビングアシスト」の拡大などにより、正味収入保険料は 26,310 百万円（前年同期比 13.9%増）となりました。
- 主力商品である個人用自動車保険「ドライブアシスト」は、新規インターネット販売件数が前年度比 82%増となり大幅に伸長しました。同商品については、2025 年 1 月 1 日以降に保険始期日となる契約を対象に商品改定を行い、前年走行距離区分に応じて異なる割引率を適用する新たなゴールド免許割引を導入しました。また、「故障時緊急修理サービス」を拡充し、業界最高レベル^(注2)のロードサービスを実現しました。
- 傷害総合保険の「サイクルアシスト」と「ゴルフアシスト」では、2025 年 1 月 14 日以降、対象の楽天カード会員への新規契約に伴う楽天ポイント進呈率を変更し、最大 3.0%分の楽天ポイントを進呈することとしました^(注3)。
- 損害サービスにおいては、2024 年 12 月 18 日より、火災保険と傷害保険を対象に「AI 自動音声システム」を利用した新しい事故受付サービスを開始しました。本サービスの導入により、電話が繋がるまでの待ち時間を削減するほか、自然災害などの予期せぬ事態でコールセンターが利用できない際にも持続的に事故受付を行うことが可能となりました。
- 基幹システムの開発計画が中止となり、損害保険事業の営業資産の全額を減損損失として計上しました。

【保険代理店事業】

- 2019 年 6 月に「楽天保険の総合窓口」を開設して以降、楽天保険グループのお客さま窓口を一本化し、ウェブサイト等では楽天保険グループ商品の販売を、また、コンタクトセンターでは契約のお手続きを、ワンストップでご提供しています。
- 楽天生命及び楽天損保からの受託事業であるコンタクトセンターでは、「次世代コンタクトセンター」の名のもと、24 時間 365 日の通話受付を可能とする「AI オペレーター」の導入に加え、生成 AI を活用したハイブリッド型 AI チャットボットサービスの提供を開始しました。

- 楽天インシュアランスプランニングは、金融商品仲介業の登録を完了し、2025年1月より「はじめての無料資産形成相談」を開始いたしました。保険商品のみならず、楽天証券株式会社で取り扱う金融商品を含めて、お客さまの資産形成をオンラインでサポートしています。

楽天インシュアランスホールディングスは、楽天生命、楽天損保、楽天保険の総合窓口の相互のシナジーを創出しつつ革新的なイノベーションを実現し、一層の成長を目指してまいります。

(注1) 共済商品区分を除く

(注2) 2025年4月 楽天損保調べ。各保険会社のロードサービスの対象項目数の比較による調査。

(注3) 最大3.0%は「楽天ブラックカード」、「楽天プレミアムカード」、「楽天ゴールドカード」の特典として適用されます。また、最大3.0%には楽天カード利用ポイントを含みます。その他、ポイントの進呈には一定の条件および上限がございます。

参考：IFRS 決算による業績について

楽天グループでは、IFRS（国際財務報告基準）を採用しているため、日本会計基準のほかにIFRSを採用し、経営管理の指標としております。

(単位：百万円)

	2023年度 (2023年4月～2024年3月)	2024年度 (2024年4月～2025年3月)	
			前年同期比
税引前当期純利益（又は損失△）(*)	7,968	△15,004	△22,972
損害保険事業	181	△15,301	△15,483
生命保険事業	7,770	243	△7,527
その他	16	54	+37

(*)楽天保険グループ各社（楽天生命保険株式会社、楽天損害保険株式会社、楽天少額短期保険株式会社、楽天インシュアランスプランニング株式会社）で作成したIFRS損益計算書の単純合計となっています。

以上

【お問い合わせ先】

楽天インシュアランスホールディングス株式会社 広報部

Email: ihd-cpd-pr@mail.rakuten.com

1.連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	2023 年度 連結会計期間末 (2024 年 3 月 31 日現在)	2024 年度 連結会計期間末 (2025 年 3 月 31 日現在)
	金 額	金 額
(資 産 の 部)		
現 金 及 び 預 貯 金	25,565	36,189
買 入 金 銭 債 権	3,502	3,270
有 価 証 券	252,656	196,679
貸 付 金	2,038	2,019
有 形 固 定 資 産	849	275
土 地	0	-
建 物	403	139
リ ー ス 資 産	0	-
建 設 仮 勘 定	5	-
そ の 他 の 有 形 固 定 資 産	439	135
無 形 固 定 資 産	14,781	5,168
ソ フ ト ウ ェ ア	14,728	5,167
の れ	27	-
そ の 他 の 無 形 固 定 資 産	24	1
そ の 他 資 産	33,170	41,780
再 保 険 貸	14,898	22,957
そ の 他 の 資 産	18,271	18,822
繰 延 税 金 資 産	13,215	103
貸 倒 引 当 金	△ 91	△ 179
資 産 の 部 合 計	345,689	285,308
(負 債 の 部)		
保 険 契 約 準 備 金	167,295	164,709
支 払 備 金	12,274	13,919
責 任 準 備 金	155,020	150,790
そ の 他 負 債	157,902	103,200
借 入 金	88,174	43,910
金 融 商 品 等 受 入 担 保 金	44,902	31,093
そ の 他 の 負 債	24,824	28,197
退 職 給 付 に 係 る 負 債	3,336	3,184
特 別 法 上 の 準 備 金	9,001	3,433
価 格 変 動 準 備 金	9,001	3,433
繰 延 税 金 負 債	249	1,193
負 債 の 部 合 計	337,784	275,720
(純 資 産 の 部)		
資 本 金	9,911	25,161
資 本 剰 余 金	6,805	22,055
利 益 剰 余 金	△ 2,247	△ 31,401
株 主 資 本 合 計	14,469	15,815
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	5,422	△ 6,132
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	△ 12,208	△ 343
退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	220	248
そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計	△ 6,564	△ 6,227
純 資 産 の 部 合 計	7,905	9,587
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	345,689	285,308

2.連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	2023 年度 連結会計期間 (2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで)	2024 年度 連結会計期間 (2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで)
	金 額	金 額
経 常 収 益	105,633	105,714
損 害 保 険 事 業	54,875	51,928
保 険 引 受 収 益	47,361	46,760
正 味 収 入 保 険 料	22,897	26,104
収 入 積 立 保 険 料	7,843	9,171
積 立 保 険 料 等 運 用 益	931	825
責 任 準 備 金 戻 入 額	15,689	10,658
資 産 運 用 収 益	7,224	4,937
利 息 及 び 配 当 金 収 入	4,984	3,538
有 価 証 券 売 却 益	3,143	2,182
そ の 他 運 用 収 益	27	40
積 立 保 険 料 等 運 用 益 振 替	△ 931	△ 825
そ の 他 経 常 収 益	288	230
生 命 保 険 事 業	49,268	52,395
保 険 料 等 収 入	47,143	50,849
保 険 料	36,613	37,476
再 保 険 収 入	10,530	13,373
資 産 運 用 収 益	2,102	1,501
利 息 及 び 配 当 金 等 収 入	1,155	1,494
有 価 証 券 売 却 益	947	7
そ の 他 経 常 収 益	22	44
少 額 短 期 保 険 事 業	10	7
保 険 料 等 収 入	10	4
責 任 準 備 金 等 戻 入 額	0	2
資 産 運 用 収 益	0	0
そ の 他 経 常 収 益	0	0
そ の 他	1,478	1,382
経 常 費 用	102,750	120,058
損 害 保 険 事 業	51,710	60,285
保 険 引 受 費 用	42,274	43,992
正 味 支 払 保 険 金	17,491	18,926
損 害 調 査 費	3,211	3,064
諸 手 数 料 及 び 集 金 費	2,286	2,219
満 期 返 戻 金	18,973	18,286
支 払 備 金 繰 入 額	281	1,468
為 替 差 損	0	0
そ の 他 保 険 引 受 費 用	29	27
資 産 運 用 費 用	781	7,912
有 価 証 券 売 却 損	611	5,638
有 価 証 券 評 価 損	20	2
為 替 差 損	78	2,269

	そ の 他 運 用 費 用	70	2
	営 業 費 及 び 一 般 管 理 費 用	8,626	8,199
	そ の 他 経 常 費 用	28	180
生	命 保 険 事 業	45,067	53,667
	保 険 金 等 支 払 金	23,000	27,068
	保 険 金	4,280	4,633
	給 付 金	8,108	8,386
	解 約 返 戻 金	92	128
	そ の 他 返 戻 金	67	51
	再 保 険 料	10,452	13,868
	責 任 準 備 金 等 繰 入 額	2,952	6,606
	支 払 備 金 繰 入 額	281	175
	責 任 準 備 金 繰 入 額	2,670	6,430
	資 産 運 用 費 用	309	1,272
	支 払 利 息	1	1
	有 価 証 券 売 却 損	-	64
	有 価 証 券 評 価 損	107	320
	有 価 証 券 償 還 損	1	3
	為 替 差 損	197	874
	貸 倒 引 当 金 繰 入 額	1	7
	事 業 費 用	15,033	15,109
	そ の 他 経 常 費 用	3,772	3,609
少	額 短 期 保 険 事 業	57	55
	保 険 金 等 支 払 金	0	2
	責 任 準 備 金 等 繰 入 額	0	-
	事 業 費 用	56	52
	そ の 他	5,914	6,050
	経 常 利 益 (又 は 損 失 △)	2,882	△ 14,344
	特 別 利 益	-	5,567
	価 格 変 動 準 備 金 戻 入 額	-	5,567
	特 別 損 失	1,424	12,396
	固 定 資 産 等 処 分 損	1,176	4,870
	特 別 法 上 の 準 備 金 繰 入 額	246	-
	価 格 変 動 準 備 金 繰 入 額	246	-
	減 損 損 失	-	7,524
	そ の 他 特 別 損 失	0	2
	税金等調整前当期純利益 (又は損失△)	1,458	△ 21,173
	法 人 税 及 び 住 民 税 等	663	△ 3,193
	法 人 税 等 調 整 額	945	11,174
	法 人 税 等 合 計	1,609	7,980
	当 期 純 損 失	△ 150	△ 29,154
	親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 損 失	△ 150	△ 29,154

連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 4 社

会社名

楽天生命保険株式会社

楽天損害保険株式会社

楽天少額短期保険株式会社

楽天インシュアランスプランニング株式会社

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結される子会社及び子法人等の当連結会計期間等に関する事項

連結子会社の決算日は、楽天インシュアランスプランニング株式会社（12 月 31 日）を除き、連結決算日と一致しております。

ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. のれんの償却に関する事項

のれんの償却については、10 年の定額法により償却を行っております。

注記事項（連結貸借対照表関係）

1. 重要な会計方針に関する事項

① 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券（現金及び預貯金または買入金銭債権のうち有価証券に準じるものを含む）の評価は、その他有価証券のうち時価のあるものについては連結決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価の算定は移動平均法）、市場価格のない株式等については移動平均法による原価法によっております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

② デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

時価法によっております。

③ 有形固定資産の減価償却の方法

主に定額法によっております。

④ 外貨建資産等の本邦通貨への換算基準

主に連結決算日の為替相場により円換算しております。

⑤ 貸倒引当金の計上方法

主な連結子会社は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、主として、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している債務者に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額等を控除し、その残額を計上しております。

今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等を債権額に乗じた額を計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、各資産所管部門が資産査定を実施し、当該部署から独立した部門が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて、上記の引当を行っております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証等による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は0百万円であります。

⑥ 退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

i) 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法について、給付算定式基準によっております。

ii) 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異について、翌連結会計年度から5年間の定額法または翌連結会計年度に一括で費用処理することとしております。

また、執行役員の退職金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

⑦ 価格変動準備金の計上方法

価格変動準備金は株式等の価格変動による損失に備えるため、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。

- ⑧ 責任準備金の積立方法
責任準備金は主に保険業法第 116 条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については次の方式により計算しております。
i) 標準責任準備金の対象契約については、金融庁長官が定める方式（平成 8 年大蔵省告示第 48 号）
ii) 標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式
- ⑨ リース取引の処理方法
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- ⑩ ヘッジ会計の方法
i) ヘッジ会計の方法は繰延ヘッジによります。
ii) ヘッジ手段とヘッジ対象は次のとおりです。
- | (ヘッジ手段) | (ヘッジ対象) |
|--------------|-------------|
| 為替予約 | 外貨建有価証券 |
| 政策投資保有株式の空売り | 国内株式 |
| 先渡取引 | 国内株式・上場投資信託 |
| オプション取引 | 国内株式・上場投資信託 |
- iii) ヘッジ方針は、有価証券の為替リスクと株価の価格変動リスクの減殺を目的とし、デリバティブ取引の執行と管理に関する権限・責任・実務内容等を定めた自社の規程に基づいた運用を実施しています。
iv) ヘッジ有効性評価の方法は、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額を基礎にして判断しています。
- ⑪ 賞与引当金の計上方法
従業員賞与に充てるため、支給見込額を基準に計上しております。
- ⑫ 消費税及び地方消費税の会計処理方法
当社及び連結子会社の消費税及び地方消費税（以下「消費税等」という）の会計処理は、主として税抜方式によっております。ただし、損害保険子会社の損害調査費、営業費及び一般管理費等の費用は税込方式によっております。なお、資産に係る控除対象外消費税等のうち、税法に定める繰延消費税等については、その他資産に計上し 5 年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、発生年度に費用処理しております。
- ⑬ 無形固定資産の減価償却の方法
自社利用のソフトウェアの減価償却の方法は、利用可能期間に基づく定額法によっております。
- ⑭ グループ通算制度の適用
当社及び連結子会社は、楽天グループ株式会社を通算親法人として、グループ通算制度を適用しております。
- ⑮ 保険料、支払備金及び責任準備金等の保険契約に関する会計処理については、保険業法等の法令等の定めによっております。
- ⑯ 株式配当金（その他利益剰余金によるもの）については、決議の効力が発生した日の後、その支払を受けた日の属する連結会計年度に認識しております。
- ⑰ 金融資産と金融負債は、金融商品会計に関する実務指針（会計制度委員会報告第 14 号）第 140 項に該当する場合には、相殺表示しております。
- ⑱ 外貨建その他有価証券の換算差額については、為替による影響も含めてその他有価証券評価差額金として処理しております。

- ⑱ 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第 29 号 2020 年 3 月 31 日）及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第 30 号 2021 年 3 月 26 日）を適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

⑳ 表示方法の変更に関する注記

前連結会計年度において、連結貸借対照表の「その他資産」に含めて表示しておりました「再保険貸」は金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「その他資産」に表示していた 33,170 百万円は、「再保険貸」14,898 百万円、「その他の資産」18,271 百万円として組み替えております。

2. 会計上の見積りに関する事項

(1) 損害保険事業の固定資産

当連結会計年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

(単位：百万円)

	当連結会計年度
損害保険事業の固定資産	7,524

損害保険事業では、損害保険業をキャッシュ・フローを生み出す最小単位としております。当連結会計年度において基幹システムの開発計画の中止に伴う将来収益予想の悪化を踏まえ、検討した結果、減損の兆候があると判断し、割引前将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、回収可能価額をゼロとし、損害保険事業の営業資産の帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。

(2) 繰延税金資産

① 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

(単位：百万円)

	当連結会計年度
繰延税金資産	103

② 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

繰延税金資産の認識は、将来の事業計画に基づく課税所得の発生時期及び金額によって見積っております。当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、実際に発生した課税所得の時期及び金額が見積りと異なった場合、翌連結会計年度において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

3. 金融商品の状況に関する事項、金融商品の時価等に関する事項及び金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳等に関する事項

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当グループは、保険業法の規定に基づく保険事業を中心に行っております。主として保険料として収受した資金等の資産運用については、安全性を第一義とし、流動性と収益性に留意しつつ、負債特性を考慮した健全な運用資産ポートフォリオの構築を図り、中・長期的に安定的な収益を確保することを基本的な方針としております。

② 金融商品の内容及びそのリスク

生命保険子会社においては、主に買入金銭債権、有価証券により資産運用を行っております。買入金銭債権は、住宅ローン等を裏付資産とする証券化商品に投資しております。有価証券は、その他有価証券として、社債、外国証券、不動産投資信託に投資しております。

これらの買入金銭債権、有価証券は主なリスクとして、市場リスク及び信用リスクに晒されております。

損害保険子会社においては、債券のほか、株式、投資信託及び組合出資金をその他有価証券として中長期的目的で保有しており、これらは、発行体の信用リスク、金利の変動リスク及び市場価格の変動リスクに晒されています。また、外貨建債券及び投資信託を保有しており、為替の変動リスクに晒されています。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

当グループは、リスク管理に関する基本方針及びリスクの定義と管理手法を規定した資産運用リスクに関する規程等を取締役会等で定め、これらの方針・規程等に基づき、リスク管理を行っております。

生命保険子会社においては、資産運用リスク管理規程に従い、市場リスクについては、金利変動等に対する健全性指標(ソルベンシー・マージン比率)の影響の程度を定期的に測定することにより管理しております。信用リスクについては、保有する買入金銭債権及び有価証券を信用格付け別に分類し、保有状況を定期的に把握することにより管理しております。

損害保険子会社においては、以下のようにリスク管理を行っております。

(i) 信用リスクの管理

個別取引に際しては、厳正に信用リスクの分析・審査を行ったうえ、投融資を実施しています。

与信管理は、「資産自己査定基準」に従い、各関連部署により行われ、内部監査部がその手続き及び結果の妥当性について検証をしています。有価証券は「資産運用リスク管理規程」に基づき、発行体の格付け等を基準に銘柄の選別を厳しく行い、また、危険分散のため、同一銘柄への投資は過度に集中しないよう努めています。発行体の信用リスクに関しては、その信用情報や時価の把握に努め、適切な管理をしています。

これらの実施状況については資産運用リスク管理部会及びリスク管理委員会を通じ、定期的に取り締役会へ報告しています。

(ii) 市場リスクの管理

次のリスクについてはVaR等によるリスク量の計測、ストレステストを実施し、適切に管理しています。その管理状況については資産運用リスク管理部会及びリスク管理委員会を通じ、定期的に取り締役会へ報告しています。

a. 金利リスクの管理

有価証券の残高、含み損益の把握に加え、保有債券の金利感応度分析等により、リスクの把握・管理をしています。また、「統合的リスク管理規程」及び「資産運用リスク管理規程」に基づき、リスク管理部において、金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握するとともに、資産と負債のギャップ分析や金利感応度分析等のモニタリングをしています。

b. 為替リスクの管理

外貨建債券等については、総資産対比での投資額の制限、償還年月の分散及び為替ヘッジにより、為替リスクに対応しています。

c. 価格変動リスクの管理

有価証券を含む投資商品の運用・管理については、年次で策定する「資産運用計画」、「職務権

限規程」及び「資産運用リスク管理規程」に従っています。国内株式の多くは、営業と密接な関係のある政策目的で保有しているものであり、取引先の市場環境や財務状況などをモニタリングしており、価格変動リスクの減殺を目的とし、信用取引を行うことがあります。また、株式ヘッジにより、価格変動リスクの削減を行っています。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

主な金融資産に係る連結貸借対照表価額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、市場価格のない株式等及び組合出資金等は、次表には含めておりません。また、現金及び預貯金、金融商品等受入担保金、貸株取引に係る借入金については、短期間で決済されるため、時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 買入金銭債権	3,270	3,270	-
(2) 有価証券 その他有価証券	195,368	195,368	-
(3) 金融派生商品 ヘッジ会計が適用されていないもの	-	-	-
ヘッジ会計が適用されているもの	(1,030)	(1,030)	-
(4) (借入金)	(7,800)	(7,805)	(5)

- ・ デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、() で示しております。
- ・ 負債に計上されているものについては、() で示しております。
- ・ 市場価格のない株式等の連結貸借対照表計上額は 561 百万円であり、非上場株式等が含まれております。
- ・ 組合出資金等の連結貸借対照表計上額は 749 百万円であり、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」第 24-16 項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

(3) 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の 3 つのレベルに分類しております。

レベル 1 の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル 2 の時価：レベル 1 のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル 3 の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

①時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル 1	レベル 2	レベル 3	合計
買入金銭債権	-	-	3,270	3,270
有価証券	74,642	115,745	3,230	193,619
その他有価証券	74,642	115,745	3,230	193,619
国債	-	45,639	-	45,639
地方債	-	2,851	-	2,851
社債	-	14,084	1,734	15,818
株式	5,823	-	-	5,823
外国証券	-	53,169	1,496	54,666
その他の証券	68,818	-	-	68,818
金融派生商品	-	759	-	759
通貨関連	-	759	-	759
資産計	74,642	116,504	6,501	197,649
金融派生商品	-	1,789	-	1,789
通貨関連	-	-	-	-
株式関連	-	1,789	-	1,789
負債計	-	1,789	-	1,789

②時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル 1	レベル 2	レベル 3	合計
借入金	-	-	7,805	7,805

(注 1) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

有価証券

有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル 1 の時価に分類しております。上場リート等がこれに含まれます。公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル 2 の時価に分類しております。社債、外国証券等がこれに含まれます。相場価格が入手できない場合には、第三者から入手した価格を用いて評価しており、重要な観察できないインプットを用いている場合には、レベル 3 の時価に分類しております。

金融派生商品

デリバティブ取引には為替予約取引や株式先渡取引等の市場取引以外の取引が含まれております。これらの取引につきましては、取引先金融機関から提示された価格を用いており、重要な観察できないインプットを用いていないことから、レベル 2 の時価に分類しております。

借入金

借入金については、元利金の合計額を当該借入金の残存期間及び信用リスク等のリスク要因を加味した割引率で割り引いて時価を算定しており、当該割引率が観察不能であることからレベル 3 の時価に分類しております。

(注 2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品のうちレベル 3 の時価に関する情報

① 期首残高から期末残高への調整表、当期の損益に認識した評価損益

(単位：百万円)

	買入 金銭債権	有価証券	合計
期首残高	3,502	28,070	31,573
当期の損益又はその他の包括利益			
損益に計上 (※ 1)	-	7,032	7,032
その他の包括利益に計上 (※ 2)	△96	△6,375	△6,472
購入、売却、発行及び決済の純額	△135	△25,496	△25,632
レベル 3 の時価への振替	-	-	-
レベル 3 の時価からの振替	-	-	-
期末残高	3,270	3,230	6,501
当期の損益に計上した額のうち連結貸借対照表日において保有する金融資産及び金融負債の評価損益	-	-	-

(※ 1) 連結損益計算書の「資産運用収益」及び「資産運用費用」に含まれております。

(※ 2) 連結貸借対照表の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

②時価の評価プロセスの説明

当社グループは、時価の算定に関する方針及び手続を定め、時価を算定しております。算定された時価については、算定に用いた評価技法及びインプットの妥当性を検証しております。

時価の算定にあたっては、個々の資産の性質、特性及びリスクが最も適切に反映されるよう算定しております。また、第三者から入手した相場価格を利用する場合においても、利用されている評価技法及びインプットの確認などの適切な方法により価格の妥当性を検証しております。

- (4) 「時価の算定に関する会計基準の適用指針」に従い、投資信託の基準価額を時価とみなす投資信託投資信託の基準価額を時価とみなす一部の投資信託については、(3) 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項に含めておりません。当該投資信託の連結貸借対照表計上額は 1,749 百万円であります。

投資信託財産が不動産である投資信託の調整表

(単位：百万円)

	有価証券
期首残高	1,738
当期の損益又はその他の包括利益	
損益に計上 (※ 1)	-
その他の包括利益に計上 (※ 2)	10
購入、売却、発行及び決済の純額	-
期末残高	1,749
当期の損益に計上した額のうち連結貸借対照表日において保有する金融資産及び金融負債の評価損益	-

(※ 1) 連結損益計算書の「資産運用収益」及び「資産運用費用」に含まれております。

(※ 2) 連結貸借対照表の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

4. 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

減価償却累計額 1,522百万円

5. 担保に供している資産は、有価証券 66,562 百万円であります。また、担保付き債務は借入金 36,110 百万

円及び金融商品等受入担保金 31,093 百万円であります。なお、有価証券には、現金担保付有価証券貸借取引により差し入れた有価証券 66,562 百万円が含まれております。

6. 有価証券のうち消費貸借契約により貸し付けているものの金額は、66,562 百万円です。
7. 1 株当たりの純資産額は 183,142 円 28 銭です。
8. 借入金には、他の債務より債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金 7,800 百万円を計上しております。
9. 金額は記載単位未満を切捨てて表示しております。

注記事項（連結損益計算書関係）

1. 1 株当たり当期純損失は 556,886 円 65 銭です。
2. 固定資産の減損損失に関する事項は、次のとおりであります。
 - (1) 資産をグルーピングした方法
損害保険事業では、損害保険業をキャッシュ・フローを生み出す最小単位としております。
 - (2) 減損損失の認識に至った経緯
当連結会計年度において基幹システムの開発計画の中止に伴う将来収益予想の悪化を踏まえ、検討した結果、減損の兆候があると判断し、割引前将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、回収可能価額をゼロとし、損害保険事業の営業資産の帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。
 - (3) 減損損失を認識した資産グループと減損損失計上額の固定資産の種類ごとの内訳

(単位：百万円)

場所	用途	種類	金額
東京都港区	損害保険事業	ソフトウェア等	7,524

3. 金額は記載単位未満を切捨てて表示しております。

注記事項（重要な後発事象）

当社は 5 月 16 日開催の取締役会において、財政基盤の強化のため、5 月 30 日を実行日として親会社である楽天グループ株式会社を引受先として第三者割当増資を行うことを決議いたしました。発行内容は普通株式 54,392 株、発行総額 22,000 百万円とし、資本金への組入れ額は 11,000 百万円、資本準備金への組入れ額は 11,000 百万円といたします。これにより当社の資本金は 36,161 百万円、資本準備金は 33,062 百万円となります。資金の使途は借入金の返済および子会社への増資資金に充てる予定です。

< 追加情報 >

2024 年 12 月 1 日付で当社の親会社であった楽天カード株式会社が楽天グループ株式会社へ当社の全株式の現物配当を行ったことにより、親会社が楽天グループ株式会社へ変更しております。